

AI時代の超音波検査：効率化と信頼性を技師がどう支えるか

◎安藤 豪啓¹⁾

富士フイルム株式会社¹⁾

近年、AI(人工知能)の進化は医療分野における多くの変革をもたらしており、超音波検査分野でもその応用が注目されています。AIは画像解析の効率化や精度向上に寄与し、見落としを減らすツール、検査時間の短縮ができるツールとして期待されています。しかし一方で、AIには限界があり、誤判定や学習データの偏りによる課題が完全に解消されるわけではありません。そのため、AIを活用しながらも信頼性を支えるために、超音波検査技師が果たすべき役割はますます重要になっています。

本発表では、AIが超音波検査にもたらす効率化の具体例や、現場への影響について紹介します。また、AI活用に伴う課題やリスクに触れながら、検査技師に求められる新しいスキルや判断力について考察します。さらに、AI技術の進化が技師の役割にどのような変化をもたらすのか、そして人間の専門性が果たす価値について、検査の未来を見据えた視点を共有します。

AIによる技術革新が進む中でも、超音波検査技師の存在意義は今後も変わらないと考えます。本発表を通じて、AI時代における超音波検査の方向性や可能性について考えを深めるための一助となれば幸いです。